

つらい症状はウイルスの攻撃のせい？

私たちがウイルスに感染すると、身体が怠くなり食欲も無くなります。そして、震えがきて、熱が上がってきます。

頭痛がしたり、身体の節々も痛くなってきます。

このような症状は、身体の防御反応として現れているものなのです。けっして、ウイルスによって身体が侵されているからではありません。



頭痛がしたり、怠くなることで、出歩くのをやめます。

食事をやめることで、消化や吸収など、エネルギーの浪費を防げます。そのエネルギーで、持続的に高熱を生み出すことができるのです。

なぜ、そこまでして、身体は熱を上げるのかというと...

ウイルスは熱に弱く、体温が40℃になると6時間で死滅すると言われています。(脳は、41℃くらいは十分に耐えられます)

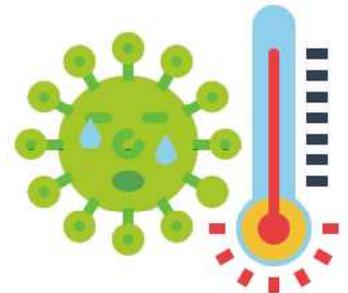
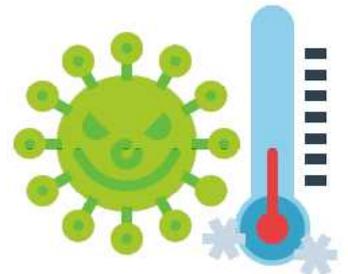
人の身体は、もともと感染症に対応できるように作られているのです。

特に、子どもたちは、免疫力が旺盛です。

そのため、ウイルスに感染すると、速やかに熱を上げることができます。

そして、ウイルスを排除できたら、自然に熱が下がります。

人は、そうやって、免疫力が鍛えられていくのです。



私たちのご先祖様は(動物の時代から)、こうした命のはたらきに従ってきました。

動物は、病気になったら、捕食活動をやめて、巣穴にこもって安静にしています。

そうやって、生き残り、進化しながら、今に生きる私たちの命につながっているわけです。

でも、私たち人類は、ずいぶん頭でっかちに進化しました。

身体からのメッセージを素直に聞き取ることができなくなったのです。

食欲もないのに「いっぱい食べて体力を付けないと...」と言って無理やりに食べさせます。

熱が出たら、すかさず解熱剤を飲ませます。

良かれと思ってのことなのですが、逆効果にしかありません。

無理に食べると、内臓に負担をかけてしまいます。

消化や吸収のために、無駄にエネルギーが浪費されてしまいます。

栄養分が吸収されると血液中の免疫細胞も活動できません。

解熱剤で、熱が下げられると、ウイルスの活動も抑えられません。

結果的に、感染を長引かせ重症化につながってしまうのです。



私たちは、ひたすら知識を詰め込むだけの教育を受けてきました。そのため、何でも鵜呑みにする癖がついてしまっています。その知識や理屈が、事実に沿っているか検証する術を知りません。そして、日々、風邪薬のキャッチコピーも耳にしてきました。身体がしんどいのは高熱のせいだと思わされてきました。親からも、「お薬を飲まないで治らないよ」と聞かされてきました。メディアのあおり報道で、感染症の恐怖が植え付けられてきました。つまり、私たちの脳の回路には「ウイルスは怖い」「病気は薬で治す」「熱は悪いもの」という観念が根深く刻み込まれているのです。

免疫システムの暴走が始まる

でも、もし、解熱剤で平熱にまで下げられてしまうと、ウイルスのほう
は元気を取り戻し増殖を始めます。

免疫システムのほうは、さらに熱を上げなければなりません。

そのせめぎ合いが続くのです。

これは、ブレーキとアクセルを同時に踏み込んでいる状態です。

これでは、身体も混乱し、暴走してしまいます。

これを、サイトカインストーム(サイトカインの嵐)といいます。
サイトカインというのは、私たちの免疫を指揮する重要な物質です。
でも、そのサイトカインは、増えすぎると毒になります。
そして、身体の様々な組織を損傷させることになってしまいます。
本人は、熱が下がって安心していると、病状が急変して、突然、亡くな
ってしまうわけです。

これが、脳症や急性肺炎、多臓器不全といわれている病態です。

でも、こうした事実は、一般には伏せられています。

たとえば、インフルエンザにかかって脳症になったとします。

すると、インフルエンザ脳症と診断されるのです。

つまり、脳症をインフルエンザウイルスのせいになっているわけです。

なので、誰も、薬剤が脳症の原因になっているとは気づきません。

メディアのほうも盛んにインフルエンザ脳症の恐怖をあおります。

そして、不安に駆り立てられた多くの人々が、安心を得るためタミフルや解熱剤に走ります。

それによって、結果的に、脳症のリスクを背負うことになっているのです。

インフルエンザウイルスが身体を攻撃するものではありません。

また、薬が病気を治すのでもありません。

安心は、自らの「いのち」の自覚からもたらされるのです。

熱のと鼻に〇〇が効く
クシャミ3回 〇〇錠
早めの〇〇〇〇

